

解 題

雑誌「太陽」は、明治二十八（一八九五）年一月、大橋新太郎を館主とする博文館から創刊された。この年博文館は、前年まで刊行されていた「日本大家論集」（創刊明20・6、以下括弧内は創刊年月を意味する）、「日本之法律」（明21・2）、「日本之少年」（明22・2）、「日本商業雑誌」（明23・10）、「婦女雑誌」（明24・1）、「尋常幼年雑誌」（明24・1）、「日本農業雑誌」（明25・1）、「文芸共進会」（明25・1）、「学生戦筆場」（明27・1）、「征清画談」（明27・10）の十の雑誌と、「世界文庫」（明26・3）、「小説明治文庫」（明26・8）、「古今逸話文庫」（明26・9）、「春夏秋冬」（明27・6）の四つの叢書を、「太陽」のほか「少年世界」「文芸倶楽部」に整理統合した。このうち「太陽」は、「日本商業雑誌」「日本大家論集」「日本農業雑誌」「日本之法律」「婦女雑誌」の五誌を継承したものである。これ以降、刊行は、昭和三（一九二八）年二月にまで到る。本解題はこの間に刊行された、計五百三十一冊を対象とする。これには通常号の他、増刊号も含まれる。

「太陽」では編集名義人の他に、編集主幹もしくは主筆をおいていた時期があり、その交替によって誌面の構成やその内容が大きく変化している。この実質的な編集長の交替を目安に全体を大きく七つの期に区分

し、各期ごとに、奥付の記載事項を示すことを原則とした。ただし、増刊号および特集号は、表紙の記載を示した。ここで特集号とは、通常号のうち、その号での特集名が表紙に記載されているもの（第六期）に關しては、表紙、および目次の冒頭に記載があるもの）を指す。

〈第一期〉

坪谷善四郎（水載）時代 第一巻第一号（明28・1・5）〜第三巻第十号（明30・5・20） 四十七冊

発行人 大橋新太郎

編輯人 坪谷善四郎 第一巻第一号〜第一巻第六号

印刷人 岸上操 第一巻第七号〜第三巻第十号

印刷所 愛敬利世

印刷所 *記載なし

発行所 博文館（東京市日本橋区本町三丁目八番地）

発行日 増刊を除き、第一巻は毎月一回、五日。第二巻・第三巻は毎月二回、五日、二十日

定価 第一巻・第二巻は十五銭。第三巻は十七銭
体裁 第一巻は四六倍版。第二巻・第三巻は菊判

冊数 第一巻は十二冊。第二巻は二十五冊。第三巻は十冊
増刊 新法令（第二巻第十号、明29・5・15） 十五銭

特集号 李明天皇御式年祭 英照皇太后御大葬記事（第三巻第四号、

明30・2・20）

特記事項

* 「太陽」創刊の前年(明治二十七年)の十二月、博文館発行の諸雑誌には、太陽創刊に関する広告が掲げられている。この広告のうち、「太陽発刊ノ主意」の全文を参考のために、本解題の末尾に付す。

* 第三卷第二号、第三号 通常の表紙に黒枠が加えられている
* 第三卷第四号 特集号だが、他の通常号の表紙と意匠が異なる

卷第十五号

佐久間衝治 第六卷第五号、第八号
* 第三卷には記載なし

印刷所 博文館印刷工場(京橋区竹川町十九番地) 第四卷第一号、第五卷第三号

博進社工場(東京市小石川区久堅町百八番) 第五卷第四号、第五卷第七号、第五卷第九号、第六卷第四号、第六号、第七号、第九号、第十五号。第七卷第一号、第八卷第十五号

秀英舎工場(東京市牛込区市ヶ谷加賀町一丁目十二番地)

第五卷第八号、第六卷第五号、第六卷第八号

発行所 博文館(東京市日本橋区本町三丁目)

発行日 増刊を除き、第三卷、第五卷は毎月二回、五日と二十日(第四卷第一号および第五卷第一号は、一月二日)。第六卷は毎月一回、一日。第七卷、第八卷は毎月一回、五日

定価 第三卷、第五卷は十七銭。第六卷は二十五銭。第七卷、第八卷は三十銭

体裁 第三卷、第五卷は菊判。第六卷は菊倍版(第五号のみ菊判)。第七卷、第八卷は四六倍判。

冊数 第三卷は十五冊。第四卷は二十五冊。第五卷は二十七冊。第六卷は十五冊。第七卷は十四冊。第八卷は十五冊

増刊 博文館創業十周年記念臨時増刊(第三卷第十二号、明30・6・5) 三十八銭

第二期

高山林次郎(樗牛)時代 第三卷第十一号(明30・6・5)~第八卷第十五号(明35・12・5) 百一十冊

発行人 大橋新太郎 第三卷第十一号、第六卷第十五号

坪谷善四郎 第七卷第一号、第七卷第七号

岸上操 第七卷第八号、第八卷第十五号

編輯人 岸上操

印刷人 愛敬利世 第三卷第十一号、第三卷第二十五号、第五卷第八号

号

金崎金平 第四卷第一号、第五卷第三号

水谷景長 第五卷第四号、第五卷第七号、第五卷第九号、第五卷第二十七号、第六卷第一号、第四号、第六号、第七号、第九号、第十五号。第七卷第一号、第八号

第七号、第九号、第十五号。第七卷第一号、第八号

箕都三十年(第四卷第九号、明31・4・28) 三十銭

新法令(第五卷第八号、明32・4・17) 二十五銭

明治十二傑(第五卷第十三号、明32・6・15) 七十五銭

現行改正条約類纂(第五卷第十九号、明32・8・25) 二十銭

新法令(第六卷第五号、明33・4・25) 二十五銭

十九世紀(第六卷第八号、明33・6・15) 五十銭 上製、七十銭

十銭

世界一周(第六卷第十四号、明33・11・3) 三十八銭

新法令(第七卷第六号、明34・5・25) 三十銭

世界国勢要覧(第七卷第十一号、明34・9・10) 三十銭

新法令(第八卷第六号、明35・5・25) 三十銭

海之日本(第八卷第八号、明35・6・15) 六十銭 上製、八十銭

十銭

世界国勢要覧(第八卷第十三号、明35・10・20) 三十銭

第三期

鳥谷部統太郎(審汀)時代 第九卷第一号(明治36・1・1)~第十五卷第一号(明42・1・1) 九十五冊

卷第一号(明42・1・1)

九十五冊

発行人 鳥谷部統太郎 第九卷第一号、第十四卷第十六号

浅田彦一 第十五卷一号

編集人 鳥谷部統太郎 第九卷第一号、第十四卷第十六号

浅田彦一 第十五卷第一号

印刷人 石川金太郎 第九卷第一号、第十一卷第十六号

飯田三千太郎 第十二卷第一号、第十五卷第一号

印刷所 秀英舎(東京市京橋区西紺屋町二十六七番地) 第九卷第一号、第十一卷第十六号

第十二卷第一号

秀英舎第一工場(東京市牛込区市ヶ谷加賀町一丁目十二番地)

第十二卷第一号、第十五卷第一号

発行所 博文館(東京市日本橋区本町三丁目)

発行日 増刊を除き、毎月一回、一日

定価 増刊を除き、三十銭

冊数 第九卷は十四冊。第十卷は十六冊。第十一卷は十六冊。第十二卷は十六冊。第十三卷は十六冊。第十四卷は十六冊。第十五卷は一冊

増刊 陸の日本(第九卷第七号、明36・6・15) 三十銭

世界国勢要覧(第九卷第十二号、明36・10・20) 三十銭

明治史第一編 議事史 附明治三十六年史(第十卷第二号、明37・1・15) 三十銭

新法令 附軍国議事史(第十卷第六号、明37・4・20) 三十銭

滿韓大観(第十卷第九号、明37・6・15) 三十銭

日露海戦史(第十卷第十五号、明37・11・20) 三十銭

明治史第二編 財政史 附明治三十七年史(第十一卷第三号、明38・2・20) 三十銭

新法令 附第二次軍国議事史(第十一卷第六号、明38・4・

20) 三十銭

紀念増刊 世界之帝王(第十一卷第九号、明38・6・15) 三十銭

明治史第三編 外交史(第十一卷第十五号、明38・11・20) 三十銭

明治史第四編 産業史(第十二卷第三号、明39・2・20) 三十銭

新法令(第十二卷第六号、明39・4・20) 三十銭
戦時経営(第十二卷第九号、明39・6・15) 三十銭

明治史第五編 交通発達史(第十二卷第十五号、明39・11・20) 三十銭

明治史第六編 政党史(第十三卷第三号、明40・2・20) 三十銭

新法令(第十三卷第七号、明40・5・10) 三十銭
明治名著集(第十三卷第九号、明40・6・15) 六十銭 特製

外人之日本観(第十三卷第十五号、明40・11・3) 三十銭
黄白人の衝突(第十四卷第三号、明41・2・15) 三十銭

新法令(第十四卷第七号、明41・5・15) 三十銭
時代之趨勢(第十四卷第九号、明41・6・15) 三十銭

現代の代表的人物(第十四卷第十五号、明41・11・15) 三十銭

《第四期》

浮田和民時代 第十五卷第二号(明42・2・1) 第二十三卷第七号(大6・6・15) 百三十冊

発行人 浅田彦一

編集人 浅田彦一

印刷人 飯田三千太郎 第十五卷第二号 第十六号、第十五卷第八号、第十五卷第十号、第十三号

市川七作 第十五卷第七号、第十五卷第九号、第十五卷第十号、第二十三卷第七号

印刷所 秀英舎第一工場(東京市牛込区市谷加賀町一丁目十二番地) 第十五卷第二号、第十六号、第十五卷第八号、第十五卷第十号、第十三号

博文館印刷所(東京市小石川区久堅町百八番地) 第十五卷第七号、第十五卷第九号、第十五卷第十四号、第二十三卷第七号

発行所 博文館(東京市日本橋区本町三丁目) 七号

発行日 増刊を除き、毎月一回一日
定価 増刊を除き、第十五卷第二号、第二十二卷第四号は三十銭。第二十三卷第五号、第二十三卷第七号は三十五銭。ただし、以下の巻号は特別定価。第十八卷第十四号は四十五銭。第二十卷第一号、第四号、第十一号、第二十一卷第一号、第四号

明治聖天子(第十八卷第十三号、大1・9・10) 六十銭
大正維新之風雲(第十九卷第四号、大2・3・15) 三十銭
新法令(第十九卷第七号、大2・5・15) 三十銭

近時之婦人問題(第十九卷第九号、大2・6・1) 三十銭
南進乎北進乎(第十九卷第十五号、大2・11・15) 三十銭
新法令(第二十卷第六号、大3・5・15) 三十銭
内閣組織と政党(第二十卷第八号、大3・6・15) 三十銭
新法令(第二十一卷第七号、大4・6・5) 六十銭
御大礼盛儀(第二十一卷第八号、大4・6・15) 六十銭
御大礼記念(第二十一卷第十四号、大4・11・25) 三十五銭
新法令(第二十二卷第六号、大5・5・20) 三十五銭
世界及変局と日本(第二十二卷第八号、大5・6・15) 三十五銭

体裁

冊数

第十五卷は十五冊。第十六卷は十六冊。第十七卷は十六冊。第十八卷は十六冊。第十九卷は十六冊。第二十卷は十四冊。第二十一卷は十五冊。第二十二卷は十五冊。第二十三卷は七冊

増刊

明治史第七編 文芸史(第十五卷第三号、明42・2・20) 三十銭

新法令(第十五卷第七号、明42・5・15) 三十銭
新進二十五名家(第十五卷第九号、明42・6・15) 三十銭
伊藤博文公(第十五卷第十五号、明42・11・10) 三十銭

一等国(第十六卷第二号、明43・1・20) 三十銭
新法令(第十六卷第七号、明43・5・15) 三十銭
日英大博覧会(第十六卷第九号、明43・6・15) 三十銭

日本民族の膨張(第十六卷第十五号、明43・11・10) 三十銭
現代社会観察(第十七卷第三号、明44・2・15) 三十銭
新法令(第十七卷第七号、明44・5・15) 三十銭

列強外交時局(第十七卷第九号、明44・6・15) 三十銭
戦争乎平和乎(第十七卷第十五号、明44・11・15) 三十銭
新法令(第十八卷第七号、明45・5・15) 三十銭

雄飛廿五年(第十八卷第九号、明45・6・15) 六十銭

特記事項

第十七卷第一号から欄の分割が消える。

特集号 御大葬記念号(第十八卷第十四号、大1・10・1) 四十五銭

第十八卷第十二号、第十四号(御大葬記念号)、第二十卷第五号は通常の表紙に黒枠が加えられている。
第十九卷第十二号が、平出修の小説「逆徒」により発禁処分となる。

〈第五期〉

浅田彦一 (江村) 時代 第二十三卷第八号 (大6・7・1) 第二十九卷第十一号 (大12・9・1) 八十八冊

発行人 浅田彦一
編集人 浅田彦一

印刷人 市川七作 第二十三卷第八号、第二十六卷第一号
大橋光吉 第二十六卷第二号、第二十九卷第十一号

印刷所 博文館印刷所(東京市小石川区久堅町百八番地) 第二十三卷第八号、第二十九卷第十一号

発行所 博文館(東京市日本橋区本町三丁目) 第二十三卷第八号、第二十五卷第十号

博文館(東京市日本橋区本石町三丁目) 第二十五卷第十号、第二十九卷第十一号

発行日 毎月一回、一日
体裁 四六倍版

定価 第二十三卷第八号、第二十四卷第五号は三十五銭。第二十四卷第六号、第二十五卷第一号は三十八銭。第二十五卷第二号、第十一号は四十五銭。第二十五卷第十二号、第二十六卷第四号は五十銭。第二十六卷第五号、第二十九卷第十一号は六十銭。ただし、以下の巻号は特別定価。第二十三卷第十号は五十五銭。第二十四卷第一号、第四号、第十一号、第二十五卷第一号は六十銭。第二十五卷第四号、第十一号、第二十六卷第一号は八十銭。第二十六卷第四号、第十号は一円。第二十七卷第一号、第四号は一円二十銭。第二十七卷第十一号は一円。第二十九卷第一号は一円五十銭。第二十九卷第四号、第十一号は一円二十銭。

冊数

第二十三卷は七冊。第二十四卷は十四冊。第二十五卷は十四冊。第二十六卷は十四冊。第二十七卷は十四冊。第二十八卷は十四冊。第二十九卷は十一冊

増刊

新法令 (第二十三卷第十一号、大6・9・5) 三十五銭
新法令 (第二十四卷第六号、大7・5・20) 三十八銭
世界及再造 (第二十四卷第八号、大7・6・15) 七十銭
新法令 (第二十五卷第六号、大8・5・20) 四十五銭
世界大戦 (第二十五卷第八号、大8・6・15) 一円
世界不安 (第二十六卷第七号、大9・6・15) 一円
新法令 (第二十七卷第六号、大10・5・20) 六十銭
不老長生の研究 (第二十七卷第八号、大10・6・15) 一円
新法令 (第二十八卷第六号、大11・5・20) 六十銭
皇室の光輝 (第二十八卷第八号、大11・6・15) 二円五十銭
特製 五円
新法令 (第二十九卷第六号、大12・5・20) 六十銭
日本山水大観 (第二十九卷第八号、大12・6・15) 一円五十銭

特集号 山県公の生涯と功業 (第二十八卷第三号、大11・3・1) 特記事項

〈第六期〉

長谷川誠也 (天漢) 時代 第二十九卷第十二号 (大12・10・1) 第三十三卷第三号 (昭2・3・1) 四十七冊

発行人 浅田彦一 第二十九卷第十二号、第十三号

編集人 浅田彦一 第二十九卷第十二号、第十三号
長谷川誠也 第三十卷第一号、第三十三卷第三号

印刷人 大橋光吉 第二十九卷第十二号、第三十一卷第十四号、第三十二卷第二号、第三十三卷第三号

印刷所 博文館印刷所(東京市小石川区久堅町百八番地) 第二十九卷第十二号、第三十一卷第十四号、第三十二卷第二号

発行所 共同印刷株式会社(東京市小石川区久堅町百八番地) 第三十二卷第二号、第三十三卷第三号

定価 第二十九卷第十二号、第十三号は六十銭。第三十卷第一号、第三十三卷第三号は八十銭。ただし、第三十卷第十一号は一円

冊数

第二十九卷は二冊。第三十卷は十四冊。第三十一卷は十四冊。第三十二卷は十四冊。第三十三卷は三冊

増刊

最新保健の研究 (第三十卷第八号、大13・6・15) 八十銭
新法令 (第三十一卷第六号、大14・5・20) 八十銭
世界の驚異 (第三十一卷第八号、大14・6・15) 一円五十銭
新法令 (第三十二卷第六号、大15・5・25) 一円
自然美の日本 (第三十二卷第八号、大15・6・15) 一円五十銭

特集号

大震災号 (第二十九卷第十二号、大12・10) 大震災一周年記念号 (第三十卷第十一号、大13・9・1) 最近科学発明会の進歩 (第三十一卷第一号、大14・1・1) 電話無線号 (第三十一卷第四号、大14・4・1) 最近世相批判 (第三十一卷第十一号、大14・9・1) 農村問題号 (第三十一卷第十四号、大14・12・1) 現代思想界の色彩 (第三十二卷第一号、大15・1・1) 太平洋問題の真髓 (第三十二卷第四号、大15・9・1) 農村不安号 (第三十二卷第十一号、大15・9・1) 普通選挙準備号 (第三十三卷第一号、昭2・1・1) 大正天皇奉悼号 (第三十三卷第二号、昭2・2・1)

〈第七期〉

平林初之輔時代 第三十三巻第四号(昭2・4・1) 第三十四巻第一号(昭3・2・1) 十四冊

発行人 長谷川誠也

編集人 長谷川誠也

印刷人 大橋光吉

印刷所 共同印刷株式会社(東京市小石川区久堅町百八番地)

発行所 株式会社 博文館(東京市日本橋区本石町三丁目)

定価 八十銭

体裁 菊判

冊数 第三十三巻は十二冊。第三十四巻は二冊

増刊 新法令(第三十三巻第六号、昭2・5・20) 一円

明治治大正の文化(第三十三巻第八号、昭2・6・15) 二円

上製 三円

昭和三年、太陽年鑑(第三十三巻第十四号、昭2・11・5) 一

円二十銭

〈版の異同について〉

CD-ROM版近代文学館⑥「太陽」の編集の過程において、近代文学館所蔵本と編集委員の蔵本から、以下のような版の異同が確認されたので記しておく。

第一巻第一号(明28・1・5) 第一巻第三号の表紙に「八版」を刊行したとの記載があるが、版数を重ねた原本は未確認である。
第一巻第二号(明28・2・5) 五版を確認。また、第一巻第三号の表紙に「六版」を刊行したとの記載があるが、二版、四版及び六版は未確認である。

第一巻第三号(明28・3・5) 二版を確認した。
第一巻第四号(明28・4・5) 二版を確認した。
第一巻第五号(明28・5・5) 二版を確認した。
第一巻第六号(明28・6・5) 二版を確認した。
第一巻第八号(明28・8・5) 二版を確認した。
第一巻第九号(明28・9・5) 二版を確認した。
第一巻第十号(明28・10・5) 二版および三版を確認した。
第一巻第十一号(明28・11・5) 二版を確認した。
第一巻第十二号(明28・12・5) 二版を確認した。
第二巻第十号「新法令」(明29・5・15) 二版を確認した。
第二巻第十五号(明28・7・20) 二版を確認した。
第二巻第二十三号(明29・11・20) 口絵のキャプションに、青木稔弥蔵本と異同がある。

第三巻第四号(明30・2・20) 口絵のキャプションに、青木稔弥蔵本と異同がある。

第三巻第十二号「博文館創業十周年記念臨時増刊」(明30・6・15) 限定千部の上製本を池内輝雄蔵本で確認した。巻頭の二頁に「謹啓仕

候今月十五日は本館創業の第十周年に相当致候に付記念として本書出版仕候即平生御眷顧の万一に酬ひんが為め特に装丁を凝し一部を坐右に捧呈仕候間御一覽の栄を給はり候は、大幸の至に御座候不宣ノ明治三十二年六月(*数字分アキ)大橋新太郎」と献呈の辞があり、毛筆で献呈者名が加筆されている。

第四巻第十六号(明31・8・5) 「再版出来せり」との広告が、第四巻第十七号にある。ただし、再版本自体は未確認である。

第五巻第十三号「明治十二傑」(明32・6・5) 千部限定の上製本を確認した。またこれとは別に、巻頭の二頁に「謹啓仕候今月十五日は本館創業の第十二周年に相当致候に付記念として太陽臨時増刊明治十二傑を出版仕候即平生御眷顧の万一に酬ひんが為め一部を坐右に捧呈仕候間御一覽の栄を給はり候は、大幸の至に御座候不宣ノ明治三十二年六月(*数字分アキ)大橋新太郎」と献呈の辞があり、毛筆で献呈者名が加筆された上製本も確認した。

第六巻第一号(明33・1・15) 再版を確認した。広告が初版と異なる。第六巻第八号「十九世紀」(明33・6・15) 並製本の表紙は、えんじ色のものと紫色の二種類を確認した。また、奥付に上製の価格表示があるが、上製本自体は未確認である。

第六巻第十四号(明33・12・5) 四版を確認した。

第八巻第八号「海之日本」(明35・6・15) 奥付に上製の価格表示があるが、上製本自体は未確認である。

第十三巻第九号「明治名著集」(明40・6・15) 上製本を確認した。第十八巻第十三号(大1・9・13)「明治聖天子」七版を確認した。

第二十八巻第八号「皇室の光輝」(大11・6・15) 奥付に特製の価格表示があるが、特製本自体は未確認である。
第三十三巻第八号「明治大正の文化」(明2・6・15) 上製本(函入り)を確認した。

〈参考〉

太陽発刊ノ主意

皇師一ビ出征シテヨリ、向フ所前ナク、既ニ敵ヲ朝鮮ノ国境外ニ撃退シ、竟ニ敵国ニ入テ要衝ノ地ヲ占領ス、清国四百州ノ山河震撼シ、愛親覚羅氏將サニ土崩瓦解セントス、而シテ欧米列国皆帝國ノ勇武ニ歎服セサルナシ、嗚呼是レ振古未曾有ノ大盛時ナリ、帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シタルコト幾何ゾヤ、我カ国文明ノ制ヲ取リテ武ヲ練リ兵ヲ修ムルコト二十年、海陸ノ精銳、歐洲強國ト雖モ殆ント加フルナシ、是レ清軍ヲ撃挫シテ向フ所披靡セサルハナキ所以ニシテ、而シテ列國ノ驚異敬憚シ国民ノ誇揚鼓舞スル所以ナリ、

曾テ欧米列國ニ遊ブモノ、皆我カ帝國ノ価値ノ彼レニ知ラズシテ、殆ント眼外ニ措カル、ヲ慨セサルナシ、今ヤ彼ノ國人等嘖々トシテ我カ勇武ヲ激賞シ、為メニ帝國ノ名声響甚ナルヲ致セリ、我カ国民是ニ於テ始メテ彼レト伍シテ礼重ヲ享クヘク、帝國ノ勢力亦隠然トシテ列國間ニ重キヲ加フベシ、乃チ世界ノ日本タル所以是レヨリ見ルベシ、然リト雖モ我カ帝國ノ進歩セルモノ、豈啻ダ陸海軍ノミニ止マランヤ、技芸、学問、生活、皆絶大ノ進歩ヲナシ、特ニ其ノ性質ニ於テコソ少差アレ、程度ニ於テハ殆ント欧米列國ニ凌駕スベキモノアリ、例セバ技芸、

及ヒ生活ノ如キ是レナリ、蓋シ立國以降三千年、未ダ曾テ大陸変乱ノ風潮ヲ受ケザルト國民ノ聰明剛健ナル智能トニ依テ、一種特異ノ進歩ヲナシ、且ツ我カ聖天使維新ノ大業ヲ創メ玉ヘルヨリ、皇讓雄大、智識ヲ世界ニ求ムルノ詔勅ニ基キ、広ク欧米ノ長所ヲ採リ、僅々三十年ノ間、非常ノ進歩ヲナセルモ、欧米國人未ダ治ネク之ヲ知ルニ至ラサルハ我國民ノ遺憾ニ耐ハサル所、今ヤ我カ帝國ノ武名世界ニ轟クト同時ニ我文明ノ真光輝ヲ發揚スルハ豈目下ノ急務ニ非サラシヤ、

且ツ我カ國民ト雖トモ、未ダ悉ク我カ文明進歩ノ真相ヲ知ルニ及バサルモノアリ、乃チ願ミテ之ヲ國民ニ知ラシムルコト、亦願フル必要ナルニ似タリ、況ンヤ今日以後ハ世界ノ日本タルノ実弥ヨ著ルシク、我カ國民ハ益々智識ヲ世界ニ求メテ大ニ其ノ心胸ヲ開拓スルノ必要アルベキオヤ、

我カ「太陽」ヲ發刊スルノ大主意ハ實ニ斯ノ如シ、夫レ征清ノ盛華ハ我カ帝國ヲシテ一躍シテ世界一等國ノ地位ニ登ラシメシノミナラス、又美ニ第二ノ維新ヲナスノ機ナリ、乃チ我カ新聞雜誌モ亦進ンテ世界一等ノ地歩ヲ占メ、第二ノ維新ヲナサンコト蓋シ至當ノ順序ナリ、新聞紙ハ日夕社会ニ発スル事実ヲ報道シ論評シ、一日一時ノ急ヲ競フカタメニ、精密ノ觀察ト豊富ノ趣味ニ欠クル所多ク、又新刊書籍ハ一部一局ニ偏シテ衆人ニ嗜好セラル、ノ区域自カラ限リアリ、乃チ十分ニ社会ノ真相ヲ描シテ周密、深妙、精美、円満、普遍ナルヲ欲セバ之ヲ雜誌ニ求ムルノ外ナシ、是レ欧米諸國ニ於テ、「当代評論」「イナンバラ評論」「ハーバース月報」「北米評論」「觀察」「フィガロー」「反響」「小天地」「評論之評論」等ノ諸雜誌ガ多クノ新聞及ヒ書籍ヲ凌駕シテ、偉大ナル勢

力ヲ社会ニ有スル所以ナラズヤ

今ヤ我カ國諸雜誌ノ數、百ヲ以テ數フベシ、然レトモ多クハ片々タル小雜誌、殆ンド諸新聞ノ後塵ヲ拜スルニ過キス、而シテ其ノ新聞紙ト雖トモ、發刊數十万ヲ出ツルモノナク、大抵ハ一万内外ノミ、但シ諸協會ノ機關雜誌ハ其専門ニ屬スルモノ極メテ精密、見ルベキモノ少カラスト雖トモ、常ニ一部部ノミニ偏シテ且ツ通俗ノ趣旨ヲ欠ク、「太陽」ハ即チ總テノ社会ニ通ジ總テノ部門ニ涉リ、其ノ精ヲ抜キ華ヲ扱ビ、最モ普遍ニ最モ新規ニ最モ明快ニ、最モ優美ニ、最モ有益ニ、全般社会ノ活動進歩ヲ描写シ以テ中外ノ読者ヲ資益セントス

弊館從來毎月二十餘種ノ雜誌ヲ發行シ又多クノ新書ヲ發刊シ、幸ヒ江湖ノ愛顧ヲ博シ、其取引販売店ハ全国ノ都鄙至ル処アラザルハナク、其數一千五百餘店ノ多キニ達シ、帝國出版業ニ於テ一地步ヲ占メ、且ツ稍々欧米ニ知ラル、ニ至リシモ、未ダ十分ニ帝國ノ榮譽ヲ發揚スルノ雜誌ナキヲ慨シ、特ニ深ク今日ノ盛華ニ感スルアリ、因テ従前刊行ノ諸雜誌ハ本年十二月ヲ以テ悉ク廃刊シ、明年一月以後ハ弊館ノ全力ヲ「太陽」發行ノ一事ニ注ギ、傍ラ少年諸君ノ為メ「少年世界」ト題スル一雜誌ヲ發刊セントス、幸ヒニ朝野名家ノ贊助ト江湖ノ愛顧トニ頼リテ、帝國未曾有ノ大雜誌トシ、以テ帝國ノ名譽ヲ中外ニ宣揚セント欲ス、

故ニ「太陽」ニ載スル事項ハ大要左ノ如ク、總テ当代第一流ノ名家ニ執筆ヲ請ヒ、且ツ挿画ノ如キハ帝國ノ技芸美術トシテ字内ニ誇揚スルニ足ルモノヲ扱ビ、總テ完全無欠ノ雜誌タラシメントス、此事吾人ハ多年之ヲ計画シ、既ニ朝野ノ名流大家ノ贊助ヲ得タルモノ多シ、然レトモ其希望ノ大ナルト共ニ其ノ最モ完全ナランコトヲ期シ、茲ニ發刊ノ趣意ヲ概

述シ、且ツ目次ノ要項ヲ掲ゲ、更ラニ大方ノ高教ヲ賜ハランコトヲ切ニ冀フ所ナリ、是レ密ダ弊館ノ願ノミニアラス、亦我帝國ノ美ヲ宇内ニ宣揚スル所以ノ道ナリ、

明治二十七年十二月

博文館

* 「婦女雜誌」第四卷第二十三号 (明27・12・5) 掲載分によつた。

(井澤恒夫)